

広島県西部におけるヤイロチョウの生息地と繁殖生態

上野 吉雄¹⁾・河津 功²⁾・保井 浩³⁾・小柴正記⁴⁾

¹⁾ 広島県立広島北養護学校・²⁾ 株式会社ニチエイ・³⁾ 日本ユニシス株式会社・⁴⁾ 広島市水道局

The Habitat and Breeding Ecology of the Fairy Pitta *Pitta brachyura* in Western Hiroshima Prefecture

Yoshio UENO¹⁾, Isao KAWAZU²⁾, Hiroshi YASUI³⁾, Masaki KOSHIBA⁴⁾

¹⁾ Hiroshima-Kita School for the Mentally Retarded Faculty of Education, Hiroshima 731-0212,

²⁾ Nichiei Co. Ltd, 22-8 Saiwai-cho, Naka-ku, Hiroshima 730-0844,

³⁾ Nippon Unisys Co. Ltd, 2-7-10 Otemachi, Naka-ku, Hiroshima 730-0051 and

⁴⁾ Bureau of Waterworks Hiroshima City, 9-32 Motomachi, Naka-ku, Hiroshima 730-0011

Abstract: We have recorded nests of *Pitta Brachyuras* for the first time in the Chugoku district. In the forest of the northern part of Hiroshima Pref. in July 1996. We investigated the breeding behavior of the *Pitta Brachyura*. The two nests which we found were made in trees on the southern slope facing the valley. *Pitta Brachyuras* gave their nestlings earthworms, chilopods, etc. We found that three of the five nestlings had left the nest. Our guess is that the *Pitta Brachyura* inhabiting the northern part of Hiroshima Pref. begins nest-building in the beginning of June, egg laying and incubation in mid-June. The brooding period starts at the end of the same month. Its fledglings leave their nest in mid-July.

© 2000 Geihoku-cho Board of Education. All rights reserved.

はじめに

ヤイロチョウ *Pitta brachyura* は南半球に分布の中心があるヤイロチョウ科のなかで唯一ユーラシア大陸まで分布を広げた種で、東南アジア、インド、中国、日本、ニューギニア、オーストラリアに分布する熱帯アジア系の鳥である。国内では九州、四国から本州中部にかけて夏鳥として渡来し、繁殖する。国内における繁殖の記録はこれまでに、高知県西部で1937年に初めて営巣が確認され、1965年以後毎年営巣が確認されている（澤田 1984, 岡田 1999）。また、長崎県の雲仙岳や対馬でも営巣が確認されている（中村・中村 1995）。1982年には長野県南部の天竜川流域でも営巣が確認されている（林 1982）。中国地方では、島根県飯石郡掛合町で1977年7月に幼鳥が保護されている（島根県 1997）。

広島県内でヤイロチョウの生息が確認されたのは、1982年6月21日に山県郡加計町温井で佐藤月二氏らにより(佐藤ほか 1983)、1984年4月13日に広島市安佐北区白木町で河野一成氏により、1986年5月25日に比婆郡高野町指谷山で井原庸氏により、1986年6月1日に比婆郡高野町高暮で井原庸氏により、1986年6月15日に広島市福王寺山で小島規嗣氏により、1987年6月28日に比婆郡西城町比婆山で上原章氏により(日本野鳥の会広島県支部 1998)、1992年6月14日に芸北町俵原牧場で(上野ほか 1996)それぞれさえずりが確認されている。また、1993年5月30日に佐伯郡大野町おおの自然観察の森で東常哲也氏により1羽が目撃され(おおの自然観察の森 1993)、1993年6月10日に芸北町掛頭山で1羽を目撃し、1993年9月5日に山県郡芸北町臥竜山で1羽が、日比野政彦氏により標識調査で確認された(上野ほか 1996)。さらに、1995年6月10日に山県郡豊平町城山で小島規嗣氏により、1995年6月10日に広島市安佐北区白木町で崖登司之氏によりそれぞれさえずりが確認されている(日本野鳥の会広島県支部 1998)(図1)。

広島県内での繁殖確認例としては、1991年7月20日に佐伯郡湯来町多田で前孝春氏により巣立ち前後のヒナ1羽が保護され(日本野鳥の会広島県支部 1998)、1998年7月に広島市安佐北区白木町で営巣が確認された(上野 1999)(図1)。

ヤイロチョウは繁殖地が孤立しており、個体数も減少傾向にあるので環境庁により絶滅危惧I B類に指定されている(日高 1999)。本論文では広島県西部においてこれまでにヤイロチョウの生息が確認された場所の地形および植生について述べるとともに、その繁殖生態について若干の知見を得たので報告する。なお、本研究の一部は広島市生物調査として行われたものである。

調 査 方 法

育雛の観察は巣から約20mの位置にブラインドを設置し、その中から双眼鏡(×8)によって行った。行動の細かい観察はビデオカメラにより撮影をして、あとで解析した。

調 査 結 果

1. 生息地

これまでに広島県西部で記録のあるヤイロチョウの生息地のいくつかについて調査した。佐伯郡湯来町多田の生息地は、1991年7月20日に巣立ち前後のヒナ1羽が保護された場所である。標高約450m、傾斜15～30度で、高木としてスギ *Cryptomeria japonica* を中心とし、林床にはササ *Sasa sp.* がまばらに生えるスギ植林地で林床が開けている(図1の6、図版1-A・B)。

山県郡芸北町俵原牧場の生息地は、1992年6月14日にさえずりを確認した場所である。標高約700m、傾斜10度前後で、高木としてヒノキ *Chamaecyparis obtusa* やアカマツ *Pinus densiflora* が見られ、低木としてクロモジ *Lindera umbellata*、ヤマウルシ *Rhus trichocarpa* などが見られるヒノキ植林地で林床が開けている。周囲にはコナラ *Quercus serrata* を中心とした落葉広葉樹林が隣接している(図1の3、図版1-C・D)。

芸北町掛頭山の生息地は、1993年6月5・9・12日にさえずりを確認し、6月10日には1羽を目撃した場所である。標高約870m、傾斜10度前後で、高木としてヒノキを主体とし、低木とし



図1 広島県におけるヤイロチョウの確認地点

- | | | | |
|-----|-------------|-----------------|------------|
| 1. | 1993年 9月 5日 | 山県郡芸北町臥竜山 | 標識調査で1羽確認 |
| 2. | 1993年 6月10日 | 山県郡芸北町掛頭山 | 1羽目撃 |
| 3. | 1992年 6月14日 | 山県郡芸北町俵原牧場 | さえずり |
| 4. | 1982年 6月21日 | 山県郡加計町温井 | さえずり |
| 5. | 1995年 6月10日 | 山県郡豊平町城山 | さえずり |
| 6. | 1991年 7月20日 | 佐伯郡湯来町多田 | 巣立ち前後の雛を保護 |
| 7. | 1993年 5月30日 | 佐伯郡大野町おおの自然観察の森 | 1羽目撃 |
| 8. | 1984年 4月13日 | 広島市安佐北区白木町 | さえずり |
| 9. | 1995年 6月10日 | 広島市安佐北区白木町 | さえずり |
| | 1998年 7月 5日 | 同上 | 営巣確認 |
| 10. | 1986年 6月15日 | 広島市安佐北区可部町福王寺山 | さえずり |
| 11. | 1986年 5月25日 | 比婆郡高野町指谷山 | さえずり |
| 12. | 1986年 6月 1日 | 比婆郡高野町高暮 | さえずり |
| 13. | 1987年 6月28日 | 比婆郡西城町比婆山 | さえずり |

てアセビ *Pieris japonica* やクロモジなどが見られるヒノキ植林地で林床が開けている。周囲にはミズナラ *Quercus mongolica* やコナラなどを中心とした落葉広葉樹林が隣接している (図1の2, 図版2-A・B)。

芸北町臥竜山の生息地は、1993年9月5日に標識調査で1羽が確認された場所である。標高約1000m、傾斜15度前後で、高木としてブナ *Fagus crenata* やミズナラなどが見られ、低木としてクロモジやオオカメノキ *Viburnum furcatum* などがみられる落葉広葉樹林で、林床は開けている (図1の1, 図版2-C・D)。

2. 繁殖場所

ヤイロチョウの営巣を確認したのは、広島市安佐北区白木町 (34°35' N, 132°39' E, 265m) であり、荒谷山 (620m) の西側に位置する谷である (図1の9)。ここは1995年6月10日に崖登司之氏により生息が確認されて以来、毎年渡来が確認されている場所である。比較的温暖な気候であり、積雪が10cmを越えたり、数日間残ることはほとんどない。谷には栄堂川の支流 (川幅約2m) が流れている。谷の両側は傾斜40度前後の急斜面となっており、スギが植林されている。スギが植林されていない場所は高木としてアラカシ *Quercus glauca*, ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* などが見られ、低木としてヤブツバキ *Camellia japonica*, アセビなどが見られる常緑広葉樹林である。林床部はニホンジカ *Cervus nippon* の採食圧によってほとんど下草が見られない (図版3-C)。哺乳類は他にタヌキ *Nyctereutes procyonoides* の個体数が多く、ニホンザル *Macaca fuscata* も生息する。鳥類は、クロツグミ *Turdus cardis*, サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata*, オオアカゲラ *Dendrocopos leucotos*, ハチクマ *Pernis apivorus* などが繁殖している。

3. 繁殖の経過

1) さえずり

1998年6月12日15時30分に白木町の溪流脇のスギ植林地で2羽のヤイロチョウを確認した。オスはスギや広葉樹の梢で活発にさえずっていた。6月16日には16時36分にさえずりを確認し、5～6回さえずりを確認した。6月17日には14時40分頃に5～6回のさえずりを確認した。6月29日には16時30分、16時45分、16時55分の3回さえずりを確認した。7月9日には16時45分に巣の近くで5～6回さえずった。以上のように、抱卵・育雛期を通して、夕方の16時過ぎに2～6回くらいさえずるのみであった。また、巣から50～100m離れた場所でさえずることが多かった。さえずり地点の最外郭を直線で結んだ範囲を繁殖なわばりとし、その面積は約0.25km²であった (図2)。

2) 巣

6月27日にはヤイロチョウの古巣を発見した。谷に面した傾斜が40度くらいの南向き斜面にあり、溪流から約100m登った位置にあった (図2)。周囲の植生はアラカシ、ツブラジイ、ヤブツバキ、アセビなどの照葉樹林で、林床は下草がなく開けていた。巣はアセビの地上約2mの高さの三つ又の部分に置かれていた (図版3-D)。大きさは、長径約28cm、短径約23cmの楕円形で屋根の部分は失われていた。巣材は枯れ枝を主とし、その間をコケ、朽ち木の破片、細根、土などで埋めていた。コケの古さから前年の古巣と考えられ、産座が踏み固められているので育雛まで利用したようである。

7月4日の18時に餌を運んでいる個体を観察し (図版3-E・F)、7月5日の14時に巣を発見

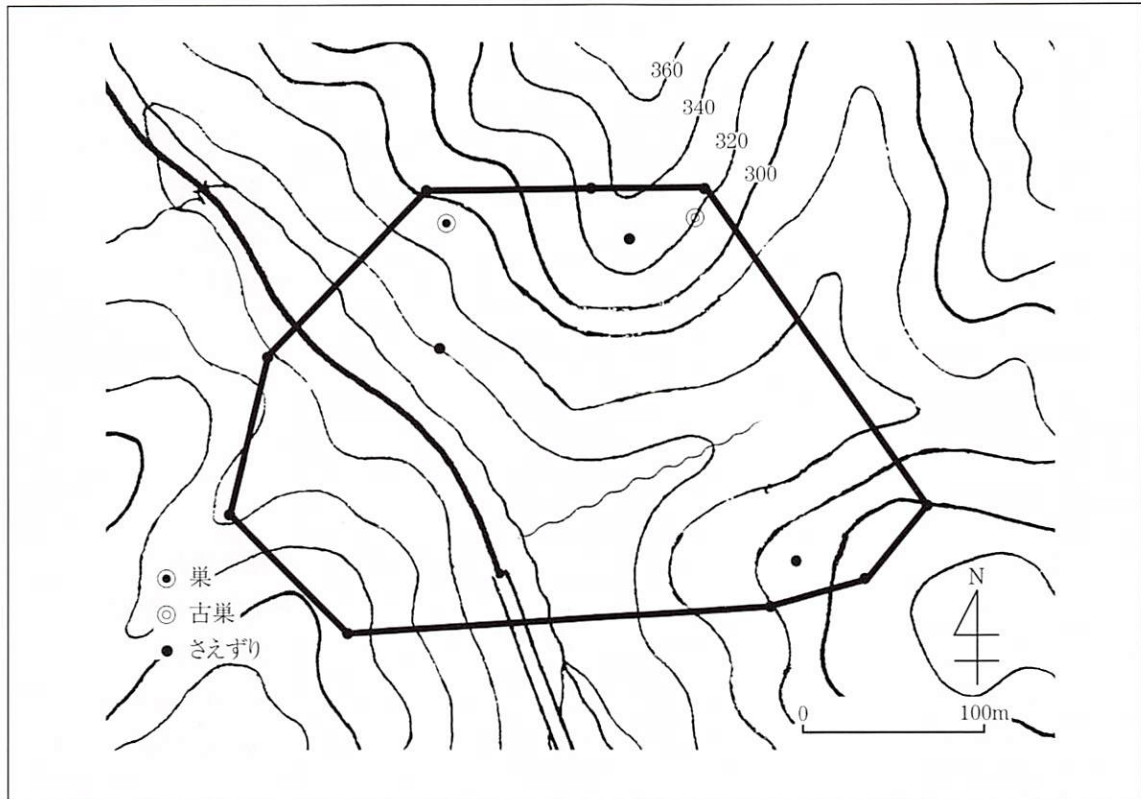


図2 繁殖なわばりと巣の位置

した。この巣は標高約270mの傾斜が20度くらいの谷に面した南向き斜面にあり、溪流から約70m離れた位置にあった(図2)。周囲の植生はヒノキを主体とし、低木相としてウツギ *Deutzia crenata* が見られた。巣の前面は直径約10mの広さのガレ場となり、開けていた。巣は倒れたアカマツの大木が他の木にもたれて斜めになっている幹の上、地上約4mの位置に置かれていた(図版3-A)。

巣は楕円形のドーム状で、入り口が横に開いていた(図版3-B)。大きさは、外側の長径約30cm、短径約25cm、高さ約20cmであった。巣の中は直径約10cmの球形の空間になり、入り口は直径約9cmの円形であった。入り口の大きさはヒナが小さいうちは約6cmくらいであったが、ヒナの成長とともに広げられた。外装は枯れ枝と鮮類を主材とし、中には35cmに達する枝も含まれていた。他にスギや広葉樹の枯れ葉なども用いられていた。産座にはマツ葉、朽ち木の破片、細根などが敷かれており、ヒナにより踏み固められていた。巣には孵化後約1週間のヒナが5羽いた。

3) 育雛

7月6日にはつがい活発に育雛していた(図版4-B)。成鳥がヒナに与えていた餌は、ミミズ類、ムカデ類、クサカゲロウ類などを確認できた。雨のあとなどで土壤が湿ったときはミミズ類が多く、晴天が続いたあとはムカデ類を運ぶことが多かった(図版4-A)。7月8日にはヒナが巣の入り口から顔を出すようになり(図版4-C)、ヒー・ヒーとトラツグミ *Zoothera dauma* に似た小さい声で鳴くようになった。親鳥はその声に答えるように、ミューと聞こえる小さな声で鳴いていた。

4) 巣立ち

7月11日にヒナの巣立ちを観察した。この日は給餌の際、ヒナが巣から身を乗り出す行動が観察されていた(図版4-D)。8時17分に1羽のヒナが突然、巣から飛び出した。このヒナは数十mを飛び、視界から消えた。次に、9時06分に2羽目のヒナが巣から飛び出した。このヒナは巣から約5mの地点に降りたち、しばらくその場にとどまっていたが(図版4-E)、ホッピングして谷の方向に移動した。9時40分に3羽目のヒナが巣から出て、巣の屋根の上に登った。その後このヒナは巣の後方に向かって飛び去った。10時30分に激しい雨となったので観察を中止した。7月12日には巣にはヒナが見られなかったので、すべて巣立ったようである。

なお、1999年はこの地域でのヤイロチョウの生息は確認されなかった。

考 察

これまでに広島県西部でヤイロチョウの生息が確認された時期は6月のものが多く、その時期から考えて繁殖している可能性が十分ある。高知県西部におけるヤイロチョウの営巣環境は、南面した40~45度くらいの傾斜地であるという(澤田 1984, 岡田 1999)。これに対して、今回調査した広島県西部におけるヤイロチョウの生息地はいずれも傾斜が約10~20度と緩やかであった。また、島根県においてヤイロチョウの渡来地として知られている三瓶山の北の原も、同様に傾斜が約10~20度と緩やかである。

また、高知県西部におけるヤイロチョウの巣は樹上のあることもあるが、大部分(51例中48例, 94%)は地上に置くという(澤田 1984)。これに対して、今回繁殖を確認した白木町における1997年のものと思われる古巣と、1998年に繁殖した巣はいずれも樹上に置かれていた。これは、白木町にはニホンジカやタヌキなどの個体数が多く、地上に巣を置くと繁殖を妨害される恐れがあるので、樹上に営巣するのではないかと考えられる。高知県西部には急峻な傾斜地が多く、そのような場所には哺乳類が近づきにくいので、地上に営巣しても繁殖妨害を受けにくいのかも知れない。

今回調査した生息地はスギ、ヒノキの植林地の周囲に落葉広葉樹林または常緑広葉樹林が隣接している場所が多かったが、全国のヤイロチョウの営巣環境も常緑広葉樹とスギ、ヒノキの出現頻度が高いという(藤田ほか 1992 a, 1992 b, 金井 1992)。

高知県西部ではヤイロチョウは5月中旬から下旬にかけて渡来し、この時期には昼夜森林の中を行動し、鳴きながら求愛行動に入る。6月上旬には営巣行動に入り、さえずりも少なくなる。抱卵期間は14~16日で、育雛期間は14~16日であるとされている(澤田 1984)。これを参考に、本調査地での7月11日の巣立ち日から推定すると、6月上旬に巣造りに入っていたと考えられ、筆者らがヤイロチョウを確認した6月12日には抱卵期に入っていたと考えられる。このため、夕方16時台に2~6回さえずりのみとなったのであろう。

給餌回数は午前中に多く、午後からは少なくなった。しかし、夕方になると再び多くなった。これは、餌となるムカデ類などの活動時間帯に関係している可能性がある。また、ミミズ類よりも大型のムカデ類を給餌することが多かった。これは、育雛期を通してほとんど雨が降らず、土壌が乾燥していたので、地表まで上がってくるミミズ類の個体数が少なかったせいではないかと考えられる。

謝 辞

本調査を行うにあたり、小島規嗣氏、日比野政彦氏、佐伯昌彦氏、栗原筑波氏をはじめとする日本野鳥の会広島県支部会員の方々、関 太郎団長をはじめとする広島市生物調査団の方々、湯来町役場の前 孝春氏には調査等のご協力や情報のご提供をいただいた。この場を借りて厚くお礼申し上げます。また、調査を進める上で様々な形でご援助いただいた、広島市環境企画課と(財)広島県環境保健協会の方々に深く感謝する。

摘 要

- 1 広島県西部におけるヤイロチョウの生息地について、その地形と植生について調査した。これらの生息地は林床が開けており、斜面はあまり急峻ではなかった。
- 2 1996年7月に広島市北部の山林において、中国地方で初めてヤイロチョウの巣を発見し、その繁殖生態について若干の知見を得た。
- 3 巣は2例とも谷に面した南向き斜面にあり、樹上に置かれていた。
- 4 育雛にはミミズ類やムカデ類が多く利用されていた。
- 5 ヒナは5羽おり、うち3羽の巣立ちを観察した。
- 6 広島市北部においてヤイロチョウが巣造りを開始するのは6月上旬、産卵および抱卵に入るのは6月中旬、育雛に入るのは6月下旬、巣成ちは7月中旬であることが推定された。

参 考 文 献

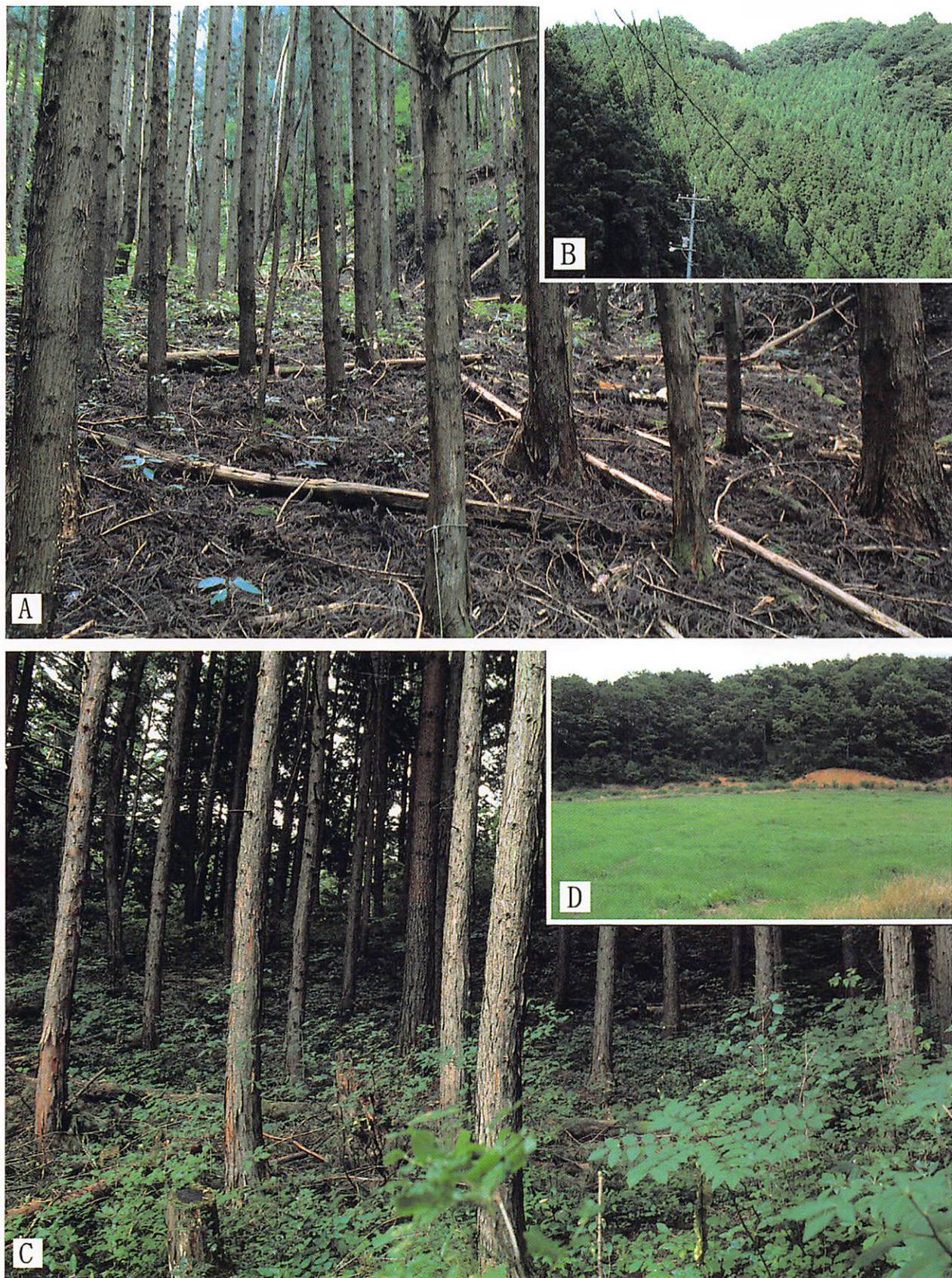
- 藤田 剛・樋口広芳・澤田佳長 1992 a 日本におけるヤイロチョウ *Pitta brachyura* の生態分布 特殊鳥類調査報告書 1-8 日本野鳥の会
- 藤田 剛・樋口広芳・澤田佳長・磯谷達宏 1992 b 四国南西部におけるヤイロチョウ *Pitta brachyura* の生息状況と環境選択 特殊鳥類調査報告書 9-29 日本野鳥の会
- 林 正敏 1982 長野県におけるヤイロチョウの繁殖初記録 *Strix*. 1:123-124
- 日高敏隆(監修) 1999 環境庁レッドリストの改訂一覧 日本動物大百科 別巻 動物分類名索引 334pp. 平凡社
- 広島県(編) 1995 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータブックひろしま) 437pp. 広島県環境保健協会
- 金井 裕 1992 九州地方のヤイロチョウ *Pitta brachyura* の生息状況 特殊鳥類調査報告書 34-42 日本野鳥の会
- 中村登流・中村雅彦 1995 原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編> 301pp. 保育社
- 日本鳥学会 1974 日本鳥類目録改訂第5版 学習研究社
- 日本野鳥の会広島県支部 1998 ひろしま野鳥図鑑 267pp. 中国新聞社
- 岡田光男 1999 四万十川周辺のヤイロチョウ *Birder* 7:54-57 文一総合出版
- おおの自然観察の森 1993 おおの自然観察の森事業報告・研究報告

- 佐藤月二・藤井 格・日比野政彦 1983 滝山峡の鳥類 滝山峡 403-419 ぎょうせい
- 澤田佳長 1984 ヤイロチョウの繁殖習性の観察 高知県立宿毛高等学校研究紀要 2:1-10
- 島根県(編) 1997 しまねレッドデータブック 島根県の保護上重要な野生動植物(動物編) 417pp.
島根県環境生活部景観自然課
- 上野吉雄 1999 中国地方におけるヤイロチョウ *Pitta brachyura* の営巣初確認 日鳥学誌 47:139-141
- 上野吉雄・保井 浩・山本 裕 1996 広島県芸北町の鳥類 高原の自然史 1:291-393

1999年8月31日受付;1999年12月11日受理

図 版 1

| | | |
|-------------|------------|---------|
| A: 生息環境の林床部 | 佐伯郡湯来町多田 | 1999年8月 |
| B: 生息環境 | 佐伯郡湯来町多田 | 1999年8月 |
| C: 生息環境の林床部 | 山県郡芸北町俵原牧場 | 1999年8月 |
| D: 生息環境 | 山県郡芸北町俵原牧場 | 1999年8月 |



図版 2



A：生息環境の林床部
B：生息環境
C：生息環境の林床部
D：生息環境

山県郡芸北町掛頭山
山県郡芸北町掛頭山
山県郡芸北町臥竜山
山県郡芸北町臥竜山

1999年8月
1999年8月
1999年8月
1999年8月

图版 2

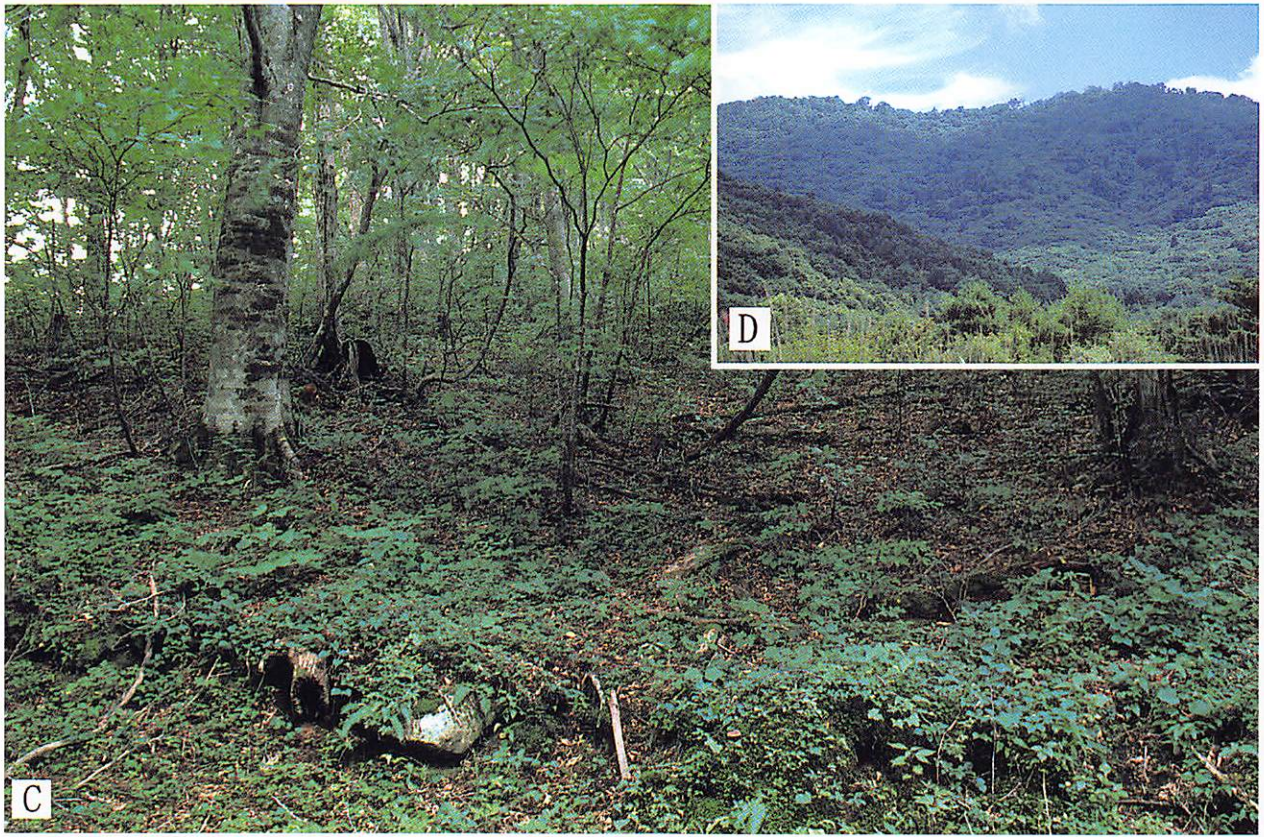
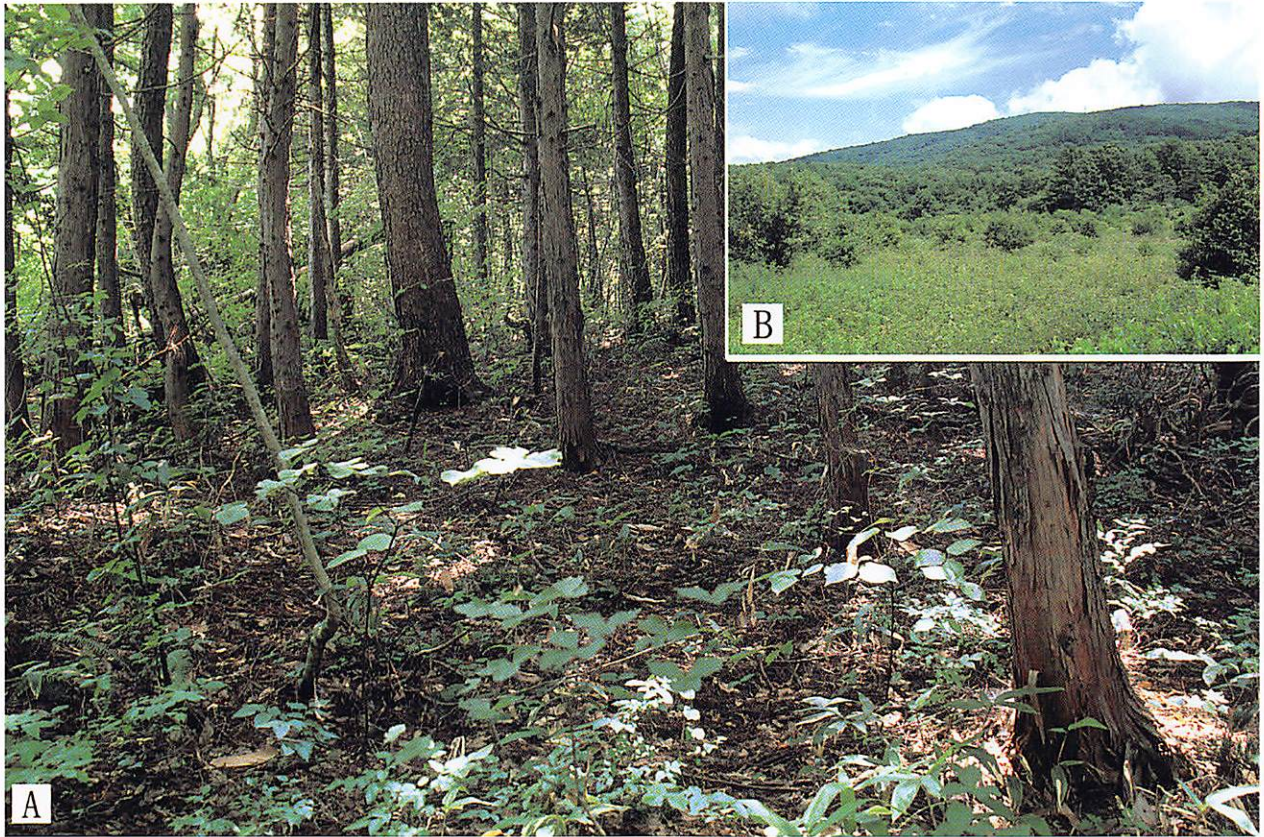


図 版 3

| | | |
|---------------|------------|------------|
| A : 巣の位置 (円内) | 広島市安佐北区白木町 | 1998年7月5日 |
| B : 巣 | 広島市安佐北区白木町 | 1998年7月5日 |
| C : 繁殖地の林床部 | 広島市安佐北区白木町 | 1998年7月5日 |
| D : 古巣 | 広島市安佐北区白木町 | 1998年6月27日 |
| E : 餌を探す親鳥 | 広島市安佐北区白木町 | 1998年7月8日 |
| F : 餌を運ぶ親鳥 | 広島市安佐北区白木町 | 1998年7月8日 |

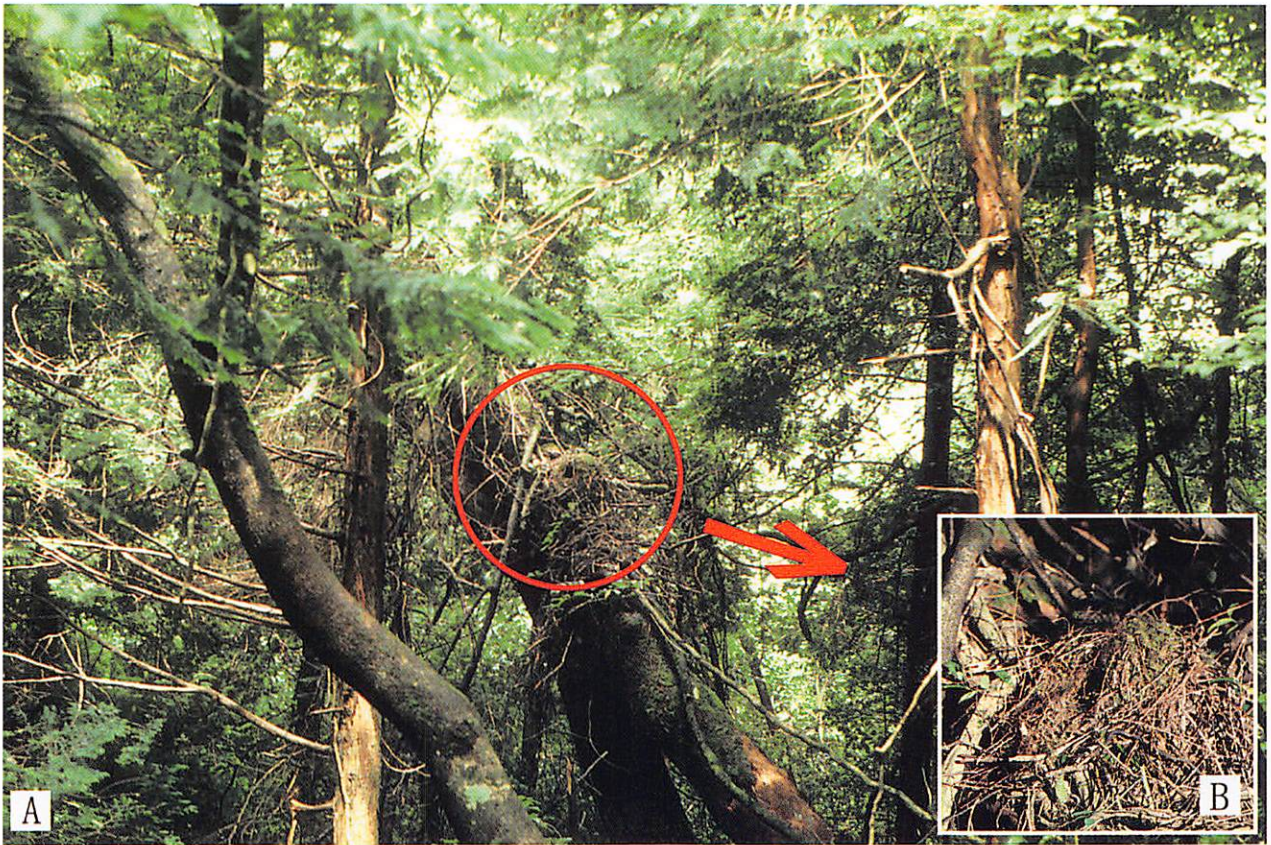


図 版 4

| | | |
|---------------|------------|------------|
| A：ヒナにムカデを運ぶ親鳥 | 広島市安佐北区白木町 | 1998年7月5日 |
| B：ヒナに餌を運ぶ親鳥 | 広島市安佐北区白木町 | 1998年7月8日 |
| C：巣から顔を出すヒナ | 広島市安佐北区白木町 | 1998年7月8日 |
| D：巣から身をのりだすヒナ | 広島市安佐北区白木町 | 1998年7月11日 |
| E：巣立ったヒナ | 広島市安佐北区白木町 | 1998年7月11日 |

